

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2772401895		
法人名	社会福祉法人まりも会		
事業所名	グループホーム樹の実		
所在地	枚方市春日北町4丁目1-20		
自己評価作成日	平成 22年 5月 7日	評価結果市町村受理日	平成 22年 8月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2772401895&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 5月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム樹の実は設立8年目をこの春迎えました。管理者の交替 新職員の採用等にて新たなスタートを切り、社会福祉法人まりも会が「地域の高齢者の為に役に立てる施設を作りたい。」「地域で安心していつまでも暮らしたい。」と望んだ思いを今年こそは、前進に繋げたいと考えています。地域のさりげない関わりはこの7年間の歴史の中でしっかり培われ、これからはその関係性を土台に、もう一歩の前進を踏み出したいと思っております。同法人の保育園や障害者施設との連携はもちろん、他事業所とも介護保険制度の関係だけでなく、地域の施設間の関わりの中で催し物への参加や助け合い、又地域の方々の寄り合いの場になればと、歌の練習場所や踊り、習いものお試し場所としてのお声掛けも始めました。樹の実のお年寄りの生活環境も、地域との関わりの中幅を広げて行きたいと思っています。「寄ってこうよ樹の実へ」に向かって前進中です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元で長年保育園を運営してきた社会福祉法人が、地域の高齢者が安心して生活できる施設をと、保育園の園庭に2ユニットのグループホームを開設して8年目を迎えています。周囲には田畑が広がり、玄関には毎年ツバメが巣を作り飛来している自然豊かな環境に立地し、隣接する同法人保育園の園児の声が聞こえます。ホームの理念として「自分らしさを大切にし、いきがいのもてるくらしを共につくります」「地域の中でともに暮らし地域の皆さんと支えあひましよう」を色紙に毛筆で記し、利用者・家族にもわかりやすく掲示しています。理念や心得を決めて利用者に日々のケアをしているホームです。各利用者のファイルには ①自主性の尊重 ②寄り添うケア ③「いるがい」作り ④閉じ込めない の4項目を表記したページを綴り込み、日々職員は念頭に入れてケアを実践しています。職員は利用者支援について、十分な打ち合わせしながら取り組んでいます。ホームの中も、リビングの設備、個室の状況も良く、利用者がそれぞれ思い思いに、自然にゆったりと過ごしており、利用者の様子・表情は、明るく穏やかです。認知症ケアに経験豊かな新施設長(管理者)のホームの更なる発展、サービスの質の向上を検討し、地域への貢献に向けた取り組みに強い意気込みがあり、職員育成を含め、理想のグループホームを目指して前進しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人の理念「人権を尊重した社会事業を行う」地域住民と力をあわせ、社会福祉を発展させる為の役割を果たす」を基に、新人職員研修時に理念を伝え理解に努めている。又、会議の中施設内研修で理念について確認を行っている。</p>	<p>ホームの理念として「自分らしさを大切にし、いきがいのもてる暮らしを共に作りましょう」「地域の中でともに暮らし地域の皆さんと支えあいましょう」を色紙に毛筆で記し、玄関正面の壁面に掲示しています。職員はもとより利用者・家族にもわかりやすく表示しています。法人理念の理解と合わせ、職員は理念に沿ったケアを実践しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の「納涼盆踊り大会」や近くの施設からの「祭り」のお誘い、公園までの散歩道、地域に方との会話等、さりげない関わりは出来ているが、地域の一人としての働き掛けを今年は目指したいと考えている。	今年着任した新施設長は「地域に根づくグループホーム樹の実」を新しいモットーに地域住民との関わりを大切にしています。公園への散歩や田畑の傍の農道への散歩は季節を感じながら日課になっており、地域住民とは挨拶を交わします。散歩にはボランティアの協力を得て共に出かけることがあります。隣接する保育園へ送迎時の保護者と挨拶を交わします。地域の納涼会や近くの特養の夏まつりにも参加します。保育園のバザーにも参加し、園児とも交流を図っています。ホームには散歩等の生活支援のほかに、ハーモニカ・大正琴の演奏やコーラス・銭太鼓・踊り等のボランティア訪問があります。地域の祭りや近隣施設行事に職員が提灯張りやチケット売り等の手伝いをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>現在、老人会のサロンへの参加や祭りへの参加、推進会議への地域の方の参加など貢献という内容には、至っていない。しかし本年度は地域の方に認知症のお話をする機会を増やし、地域の方が気軽に寄って頂ける、地域に役立つグループホームとしての役割を果たす為の働き掛けを実施したい。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>グループホームの支援経過報告を行いながら、（事業所の動きや入居者の様子などの全体像等）現在の課題や地域との関係作りの工夫について話し合いを行っている。地域の方や包括支援センター 家族様からのご意見や希望を反映できるように、職員会議で内容の報告を行っている。</p>	<p>運営推進会議は概ね2～3ヶ月に1回開催し、21年度は5回の開催でした。今年初めての会議では交代した新施設長の紹介やホームの利用者の状況報告や活動報告を行い、参加委員からは地域の活動状況報告や提案を受けています。今年3月の会議では2月に受けた市の実地指導の報告・利用者の状況報告や職員異動・地域との交流や関わりについての報告を行いました。参加の地域包括支援センター職員からの状況報告や提案を受けて、参加者と意見交換を行っています。「樹の実だより」で、利用者家族へ運営推進会議委員の募集を呼びかけています。</p>	<p>今後は、運営推進会議は概ね2ヶ月に1回、すくなくとも年6回の開催が求められます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市の担当課・担当職員とは日常的に相談、協議できるような関係になっている。電話や面談にて実情を伝えたり、サービスに係る相談などを積極的に行なっている。また地域包括支援センター主催の「グループホーム東部地区連絡会」の定例会に参加している。</p>	<p>外部評価結果や運営推進会議の議事録はその都度市の担当課に提出し、情報交換を行っています。2月には実地指導を受け、運営について助言を得ています。地域の方が気楽に利用できるよう「通所介護事業所」の開設についても助言を得て準備をしています。地域包括支援センターと連携し、「グループホーム東部地区連絡会」での活動に協力しています。市の介護相談員の訪問もあります。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」</p>	<p>身体拘束への学習について、各フロアにて会議で話し合い、身体拘束の無い暮らし（支援）を目指し、取り組みを実施している。</p>	<p>現在まで、身体拘束の3要件等の必要事例はありませんが、身体拘束に関する外部研修を受講し、「緊急やむを得ない身体拘束に関する経過観察・記録」等について研修報告を行い、全職員に周知しています。「身体拘束とは」等、身体拘束に関するマニュアルも備えています。各ユニットの玄関を日中は開錠しています。門扉も開錠しています。外出しようとする利用者には、職員が付き添い散歩するなどの配慮をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待とは」についての学習は、まだまだ不十分であり、今後研修参加を行っていく必要がある。現在は、施設内での行動や 行為の中で「何が具体的に虐待につながるのか」等を、職員会議にて管理者より確認を行い、「虐待に繋がる行為はしない」ことも話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在同施設では権利擁護に関して、職員が学ぶ機会があまり無く、本年度の研修計画の中に、権利擁護に関しての制度への理解について取り組み予定となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでも十分な説明を行っているが、契約時にも最低1～2時間の説明を行い、理解と納得につなげている。特に不安や疑問点については具体的なケアの例などを示しながら方向性を確認できるような話し方に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的には職員が直接窓口となり、話をじっくり聞いて対応し、必要な内容は管理者に知らせている。又、「意見箱」を設置し、自由に思いを伝えられるよう配慮している。苦情を伝えていく第三者機関のお知らせも掲示している。</p> <p>家族の来所時、入居者の方の状況や経過をお伝えすると同時に、ケア内容への希望や要望は無いかを聞くように努めている。又、苦情発生時は速やかに管理者につなぎ、苦情発生時手順に従い改善に向けて取り組む。</p>	<p>家族の来訪時には利用者の近況報告を行い、ケアについての家族の意向を確認し要望を聴きます。どの職員でも対応できるように「家人連絡表」を用意しており、利用者毎に「家人に伝える内容」「家人からの返答」の欄を設けてあり、対応した職員がその都度記録し、職員は情報を共有しています。運営推進会議に家族代表が参加し、意見・要望を伺う機会を設けています。家族会を開催し、家族同士の交流が行えるよう予定しています。自由に随時利用できるように、意見箱の設置場所を事務室前からリビングのテレビ横に変更し、利用者・家族も活用しやすくしました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は「何でも聞きますよ。言って下さい。」と親しみやすい。 管理者としては、職員さんとの関係性の構築が、運営上最も大切であると考えおり、職員さんの思い《考え 悩み》をしっかりと聞く姿勢を持っていきたいと思っている。その中で運営についての、話や 理解を経て、目標に向かい論議の出来る関係作りを目指している。</p>	<p>年度毎に事業計画を立て職員にはホームの運営方針を示しています。日々の申し送りや各会議・勉強会において計画の理解や実践に向けての話し合いの場を持ち、職員の意見を聴き、運営に反映させています。常勤職員会議は月2回フロア毎に午前中の時間を割いて利用者支援について、カンファレンス、サービス担当者会議も兼ねて、充分な打ち合わせを進めているホームです。管理者の対応姿勢から、個人的に管理者（施設長）に相談に来る職員もいます。業務の進め方、サービスの改善にも繋がっています。</p>	<p>日中の時間を利用しての会議は、職員は利用者支援の詳細な打合せができませんが、利用者の高齢化・重度化に伴う利用者本意の身体介護に対するサービスの充実への配慮も検討することが望まれます。</p>
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めようとしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本年度は事業計画の中で人材育成の立案を行っており、職員間での内部研修や、現場責任者からの指導、相談助言の時間を作るよう計画している。また、他施設研修の導入などの実施にて、介護支援の幅を広げている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の、3ヶ月に1回開催される東部地区グループホーム連絡会への参加を行っている。その会での世話役を務めながら、地域密着型事業所としての位置づけを踏まえ、地域支援のきっかけ作りを行っている。又「枚方市介護支援事業所連絡協議会」「認知症学会」「大阪府認知症グループホーム連絡会」等に参加し情報交換や、事業所間連携を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は不安が多く、本人の思いを受け止めるように、職員への周知を行い、安心できる場所であることを、知って頂ける働き掛けを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が介護の部分で負担を感じておられた事や、不安に思っておられること 望んでおられる事など、出来る限り耳を傾け関係性の構築に努めている。面会時にもお話を聞くことはもちろん、事業所全体として 安心できる場所への理解に繋がる努力を行っている。家族会への参加の呼びかけも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居された当所は、その方がいままでお暮らしになっていた生活を、出来るだけ継続していく方法を実施する。その方にとって、「安心した暮らし」に繋がる方法を取る事を基本としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の生活史を尊重し、こだわりや思いを受け止めながら、入居者の方が過ごしやすい空間作り、職員が寄り添い、信頼関係を作りだしている。人生の先輩方の経験や、知識や行動の中から、職員は多くの事を学ぶ事が出来る。共に過ごすことで、自分たちも生活への知恵をたくさん頂いている。感謝することは多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関係作りも大切にしており、面会時は必ず入居者の様子や思いを伝える時間を持っている。又、「家族様と共に、入居者の方を支えていきたい」という意向を伝えながら、楽しみごとへのお誘いや家族会への参加をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前のお知り合いの方の面会も積極的に受け入れ、長年の生活での馴染みの関係性の維持に努めている。手紙やはがきでの交流も援助している。	利用者の親戚や知人の来訪は積極的に受け入れ、入居前からの馴染みの美容院には家族が同行し、関係の継続を支援しています。家族と墓参りや自宅への一時帰宅も支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格や相性を考えながらお互いに支えあえるような関係を作れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人の支援はもちろん、家族様の相談や支援に努める努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の思いや暮らし方の希望や意向を確認しています。また、介護計画の見直しの際にも利用者がご家族に意向や生活の希望を確認しています。 入居者の希望や意向に関わる中で受け止め、家族から聞いた内容を職員間で共有し、実践出来るよう話し合っている。	利用者個別の日課計画書に「ケアの注意点と本人のこだわり」を細かく記しており、職員は常に念頭に入れており、日々の利用者と関わります。その中で得た利用者一人ひとりの思いを、気づいた都度「ケアプラン連動のためのキーワード」として項目別に記録しています。身体状況以外に「楽しみごと」「他者との交流・関わり」「外出や行事への参加」等が判るような工夫をし、職員は周知しています。利用者が得意な夏野菜の栽培や、手仕事を望む方には「法人のチラシ折り」の作業を実施したり希望を実践しています。各利用者のファイルには ①自主性の尊重 ②寄り添うケア ③いるがい作り ④閉じ込めない の4項目を表記したページを綴り込み、日々職員は念頭に入れてケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者に昔の暮らしを生活の中で確認したり、家族の面会時に話を聞いた方、生活歴や馴染みの暮らしやこれまでのサービス経過等の把握に努めています。 入居の際に生活歴や趣味など、把握を行い、その人らしい生活ができるよう努めている。入居後は職員が入居者に直接関わりながら情報収集を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で記録に残し、スタッフ間での情報の共有に努め、状態の変化が見られればフロア会議にて話し合い、必要に応じてご家族や NS、医師へつないでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>フロア会議にて介護の見直しの際には必ず話し合い、ご家族の意見や意向、ご利用者の意向を確認しながら、介護計画を作成しています。アセスメントシートも作成、利用者の生活暦、ライフスタイルについても配慮し、利用者が望まれる生活を取り入れる努力をしています。又、作成した介護計画について利用者や家族に説明し同意のサインを得ています。</p> <p>ケアマネージャーが中心となり、介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画書は基本的には6ヶ月毎に見直し、作成しています。家族に説明の上、同意の署名を得ています。3ヶ月毎にモニタリングを行い、ケアチェック表とアセスメントシートに記録しています。生活見直しチェック項目により、見直しの必要性和原因を考える背景・要因を検討し、モニタリングシートを作成します。見直しはフロア会議で計画作成担当者・常勤職員等で検討しています。作成した介護計画は「ケアプラン連動のためのキーワード」として取り出し、職員は共有できるようチェックシートに記載しています。利用者の状況の変化や退院時や介護度の変更があった場合は期間内にも見直しをしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと個別記録の連動を図る為に、ケアプランの視点をキーワードとし、日々の様子やケアの実践の気づきになるよう記録に工夫をしています。その記録に基づきモニタリングや介護計画の見直しを行い、記録を活かしています。 個別記録の記入を職員全員で行ない、記録の重要性や情報の共有を行っている。介護計画との連動のため、記入内容にキーワードと特記事項を用いて、見直しをしやすい工夫を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢者支援の中で、その方々の生活暦や生活スタイルを活かし、PCの導入 携帯電話の使用など、個別支援の工夫や幅を広げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの協力を得ながら楽しみごとにつながる企画を実践している。地域の方の踊りや、歌の練習場所として利用を呼びかけ、地域の方とのつながりを目指している。地域の盆踊りや隣の保育園の行事への参加も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の医師の往診（訪問診療）・訪問看護ステーションの看護師による週1回の体調把握を実施し、担当医師と話し合いができています。入居者、家族の意向への対応、ホームへの情報提供の方法等の具体化をはかっている。	希望があれば入居前からのかかりつけ医療機関への受診を支援しています。ホームでは月2回の提携医の往診と週1回訪問看護師による体調管理を受けています。月1回は歯科医の往診があり、歯科衛生士による口腔ケアが月2回あります。ホーム勤務の看護師は医師の往診時には記録を担当し、通院介助も受け持っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場での情報や気づきはグループホーム内の看護師につなぎ必要に応じて看護師から医療機関につないでいる。医療機関からの指示を看護師が現場におろしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院後の生活に対して特に不安なく生活が続行できると、主治医が判断した場合は、介護サマリーの対応のみにて退院の情報交換としているが、生活面に何らかの不安管理が必要と判断された場合は、家族様含め施設管理者同席の中主治医からの説明を受ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化への説明は担当医と家族様管理者にて行い、起こりうる症状の説明 症状の発生に伴う具体的な支援方法を伝える。また終末期になり、支援上家族様の協力が必要な時や、対応方法の変更、家族様のお考えの確認が必要な時には、その都度話し合いの場を持つようにしている。</p>	<p>「看取りに関する考え方及び重度化した場合における対応に係る指針」を入居契約時に家族に説明を行い、「重度化及び看取りについての同意書」を得ています。重度化した場合を考慮して特養への入所申請書を提出する方もいます。実際には利用者の入院状況を確認し、その都度主治医・看護師・家族を交えて相談しながら、ホームで対応できる支援方法を示し、話し合います。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応 事故発生時の対応は、施設設立以来 手順を見えるところに貼り、敏速に対応できる周知をおこなってる。</p> <p>応急処置の勉強会や訓練については今後の研修科目に入れ、看護師の指導の下実施する。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的実施する努力をしている。近隣在住の理事・職員の「非常時の援助体制名簿」作成済み。利用者も含んだ避難訓練には困難も伴うため、職員側の地道な災害時の確認(通報装置の取り扱い方など)の徹底が必要と考えている。	非常災害時に対応手順、役割分担についてのマニュアルを作成し、非常時通報関係機関および職員に連絡一覧表を作成しています。年間消防計画を提出し、昨年は年2回消防署の設備点検は受け、避難訓練を実施しています。今年になってから避難訓練は実施していません。6月に家族会で家族が参加して避難訓練を実施する予定です。スプリンクラーの設置については補助金を申請中です。災害時の飲料水や非常用食料については備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助(パット交換含)時にできていない(自分は)。嫌と言われると引いてしまっている。他の方法に切り替えられない。 入居者一人一人に合った声掛けと対応を行い自尊心を傷つけないような関わりを徹底している。	理念と共に、職員に示されている「職員の役割」の4項目の中の「①利用者の尊厳ある個人としての生活を護る」「②利用者が安心できる居場所を確保する。」を念頭に、職員一人ひとりがプライバシーに関する意識の向上を図り、日々の介護の場面でも利用者を尊重した対応、言葉遣いへの注意を心がけています。職員は就職時に守秘義務に関する誓約書を提出しています。個人情報の利用目的を明記した文書を利用者・家族には示しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>おおよそ出来ているがトイレに頻回に行く。外出しようとする際は否定(とめて)いる。</p> <p>どんな支援をする際にも必ず入居者に声掛け職員本位にならないよう自己決定が出来るよう働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>「一日の流れ」を作り生活のリズムを整えることでメリハリのある生活を目指している。職員の都合でおし進めるのではなく入居者の能力とその日の様子を見ながら、強制的にならないよう取り組み、自主性を尊重している</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>定期的に地域の美容室にお連れして常におしゃれを忘れないよう支援している。同じ服ばかりにならないよう職員が声掛けを行い身だしなみの援助をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事の準備を行い、自分の食器は自分で洗うことが習慣となっている。	食事準備等については、それぞれの利用者ができることを職員と共にを行います。職員は利用者と同じテーブルにつき、会話を楽しみながら食事を共にします。サポートが必要な方には食事形態を工夫して食べやすくする等の配慮も行っています。食材は配食サービスを利用し、カロリーや栄養バランスは配食サービスの管理栄養士がチェックしています。週1回夕食に「自由献立」の機会があり、利用者の希望の献立を考え、職員と共に買い物に出かけ調理をします。	利用者家族は日々の献立に関心があります。家族会の機会を利用して、献立表を提示してはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人に合わせて食事量を調整している。それ以外に飲み込みの悪い方へのキザミ、お粥の対応や食べやすいようにおにぎりを作る等、工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回の歯科医の往診と2週間に1回の歯科衛生士の訪問があり、口腔衛生の指示、助言を受けている。1週間に2回義歯を回収し、歯洗浄剤を使って清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。又、必要に応じてPトイレを設置し自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレ誘導が必要な方にはサポートしています。また、尿意があり自立できている方には居室にポータブルトイレを設置して、見守りがなくても、転倒の危険を回避して、自力排泄ができる方法を探っています。布パンツを使用している方は数名いますが、排泄について自立している方についても支援し、清潔の保持のため入浴日以外はパジャマに着替える際、下着交換も促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳製品(牛乳・ヨーグルト)を摂ってもらったり、昼食時には七分付きのお米を使う等の工夫をしている。午前中に体操を行い、身体を動かす事も、適度な運動となり、自力の排便に繋げる試みである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>2日に1回を目安に声掛けをしているが、入居者の希望があれば柔軟に対応を行っている。 安全に安心して入浴する為の配慮と工夫をし、出来るかぎり本人の希望に添えながら医療機関との連携の取れる時間帯での対応を設定している。</p>	<p>入浴は週2～3回実施しています。日曜日は医療機関との連携がとりにくいこともあり、現在は入浴を実施していません。重度化により立位保持が困難になった利用者には二人介助により、安全に入浴できるようサポートしています。対応可能な職員体制が取れない場合は週1回の入浴になることもありますが、その場合は清拭で対応しています。季節を感じる菖蒲湯やゆず湯は利用者に喜ばれます。</p>	<p>夏季に向かい汗ばむことも多くなります。シャワー対応も含め、職員体制の対応都合でなく、利用者の希望に添った入浴を支援することが望まれます。まずは、週に3回以上入浴できる体制を検討してはいかがでしょうか。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人一人の生活のリズムを大切にしながら入居者が安心して休めるような関わりとフロアの雰囲気づくりに努めている。又、夜間気持ちよく眠れるように足浴や清拭の対応を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬については①正しく服薬を提供する②服用の漏れはないか確認する③変更への対応と確認作業の徹底等、ホーム独自の工夫にて服薬への支援を実施している。又、入居者の服薬情報は個別綴りにすぐに確認出来るようになっている。 薬の内容、量、等を記入した用紙を職員がいつでも見られるよう綴っている。服薬の変更があった際は必ず申し送りを行って周知をしている。薬の注意事項等、看護師現場への連絡も出来ている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者の得意な事を活かし、一人一人の役割を持ちながら過ごされている。読書の好きな方、手芸の好きな方、料理や野菜づくりの経験のある方など個々の楽しみごとを支援できるよう努めている。 入居者一人一人の得意なこと出来る事など把握し、日常の家事や手芸などに活かしている。 その方自身が楽しめる役割を持てる働きかけを実施している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日課の一つとして状態に応じて出来るだけ取り組んでいる。又、週に一度夕食の自由献立があり入居者と一緒に献立を考えスーパーへの買い物に出かけている。	ボランティアの方の応援もあり、日常的に周辺の農道や近くの公園へ散歩に出かけています。同法人の保育園や障がい者作業所が開催するバザーに出かけます。週1回の自由献立の食材を利用者と共に出しに行きます。月に1回は外出に出かけます。季節の梅・桜・菖蒲などの鑑賞にも出かけます。家族との買い物や外出もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じてお金の所持についての対応を行っている。財布やお金の紛失の心配がある方については説明を行い、ホームにある個人用鍵つきBOXを使用して保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状や手紙を書いて頂き、今まで通り家族や友人との関係が続けられるよう支援している。又、家族とは事前に話し合いとしていつならTELが可能か等の相談を行い積極的に支援している。入居者の「電話をしたい」という希望に添えるよう事前に家族と相談しながらお互いに負担にならないよう支援している。又、日記を書く事を習慣にしておられた方には、合わせて手紙も書いていただくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や中庭の花壇には季節の花が植えられ、玄関にはつばめの巣もあり、自然とふれあえる環境です。生活空間はゆったりとして採光もよく、キッチンも利用者と共に料理をすることができ、家庭的な雰囲気です。熱帯魚を飼ったり、中庭にはベンチを置き、利用者が外の空気に触れることができるスペースを大切にしています。フロア内の掃除を毎日行っており、清潔の保持に努めている。こたつ、カーペット等を置き入居者が気軽に集まれるよう工夫している。	門扉に続く中庭には季節の花が植えてあり、ベンチに座り外気にあたりながら、園庭で遊ぶ園児の姿や声を聞き、今の季節は玄関エレベーターの上に巣作りしているツバメの雛の成長を見守ることができます。リビングは比較的ゆったりとした感じがします。テレビの前にはソファコーナーがあり、フロアから少し段差をつけた和室の畳で、くつろぐことも可能で、思い思いに過ごせる場所があります。食堂に続くオープンキッチンは利用者が出入りしやすく家庭的で利用者も一緒に作業ができます。壁面には季節感のある共同作業した貼り絵を飾り、ソファ横の棚の上には小さな熱帯魚が泳いでいます。リビングの壁面には利用者のお誕生日の写真等が飾ってあります。リビングに面して談話室もあり、職員は家族との対話をゆっくりすることができます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座り気の合う利用者同士で思い思いに過ごしたり、畳や障子のある和室や東方にある2人がけのベンチや芝生の中庭のベンチなどで独りになれたり、利用者同士で過ごされたりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや机、椅子、仏壇、布団、写真や自分の作品などが自宅から持ち込まれ、個性的で生活感があり、居心地の良いよう工夫しています。各居室には洗面所や押入れが備え付けられており、居室からベランダや芝生の庭に出られるようになっており、自分で洗濯物を干したりできます。 入居時に本人の馴染みの家具や物を持って来て頂き今までの生活に近づけるような工夫をしている。	利用者は入居時に使い慣れたタンスや机、イス、鏡台、仏壇やパソコン、キーボード等を自宅から持ち込み、家族の写真やお誕生日のお祝い色紙、お気に入りのぬいぐるみ等を飾り、それぞれ個性的で居心地の良いように過ごせる工夫をしています。各居室からベランダや芝生の庭に出られるようになっており、居室に外気を取り入れながら、夏野菜に水やりをしたり、洗濯物を干したりすることもできます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>洗濯物干しや食器を洗ったり、調理や盛り付けなど、一人ひとりのできる事わかる事を活かして生活の中に取り入れています。できるだけご自身でして頂くことを大切にしながら、スタッフが見守りやさりげなく支援ができるよう、個人の生活を大切にしながら支援しています。</p> <p>フロアと台所が面しており、入居者と職員が一緒に食事の準備をしたり片付けられるようになっている。</p>		